



OSAKA UNIVERSITY
OF ECONOMICS AND LAW
大阪経済法科大学

LIBERA

volume

77

2010



特集

未来への自己実現 4年間の大学生活を通じて

未来への自己実現 4年間の大学生活を通じて

本学では、日本各地、さらには海外から集った多様なバックグラウンドを持った個性豊かな学生が学んでいます。それぞれの学生は、大きな夢を持って入学し、大学生活の主人公として、4年間をかけて未来の自分を探し、作り上げていきます。

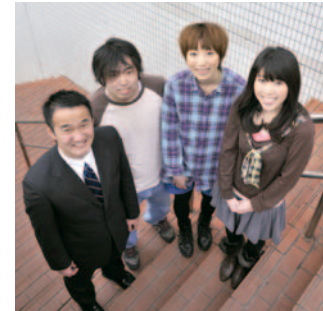
初志貫徹で、入学時から明確な目標を持ち、それを中心にして、課外活動やアルバイトを両立させるという学生がいます。一方で、大学に入ってからなんでも新しいことにチャレンジし、多くの人と出会いの中から、卒業後の自分の進むべき道を見つたり、なかなか自分が本当にしたいことが見つからないと悩み抜いた上で、「これだ。」と思える目標、未来を見つけたという学生がいます。

大学は、文化系・体育系のクラブ・サークル活動の援助、特修講座（Sコース）をはじめとする資格取得支援、国際教育プログラムによる留学制度、そして1年から4年まで一貫したキャリア支援プログラム等を通じて、学生の未来の自分探しをバックアップしています。

今回の特集では、大学の制度を活用しながら、目標を定め、希望の進路を掴んだ4年生を取り上げ、六者六様の大学生活を紹介します。そこには、在学生の皆さんが未来の自己実現を叶えるための手がかりがあるのではないのでしょうか。

大阪経済法科大学学報 [リベラ]

LIBERA
volume 77/2010



2010年3月31日発行
【編集】
大阪経済法科大学事務局庶務課
〒581-8511
大阪府八尾市楽音寺6丁目10番
TEL072・941・8211
FAX072・941・4426

<http://www.keiho-u.ac.jp/>

CONTENTS

3 特集

未来への自己実現 4年間の大学生活を通じて

吉村早弥可さん（法学部4年生／大阪府警察採用）
加藤義規さん（経済学部4年生／近畿日本鉄道(株)就職）
松永貴志さん（法学部4年生／関西大学法科大学院進学）
福谷真基さん（経済学部4年生／兵庫県立大学大学院進学）
平岡亜佑美さん（法学部4年生／近畿労働金庫就職）
朽尾祐子さん（経済学部4年生／(株)プロジェクトファイブ就職）

10 [Keiho Vitality]

大阪国際招待卓球選手権大会
女子ダブルスで優勝
全日本テコンドー選手権大会
男子2階級、女子1階級制覇
平成21年度税理士試験に科目合格
平成22年公認会計士試験（短答式）に合格
法学部 学生研究発表大会を開催
2009年度資格・検定試験 合格者祝賀会を開催 他



14 [経法タイムス]

法学部公開シンポジウム「岐路に立つ地方分権」を開催
環境市民講座を開講
租税教室、学術講演会を開催
防災講演会、自衛消防訓練を開催 他



17 [国際交流通信]

2009年度LSP留学体験記
新年国際交流会
異文化交流行事 他

20 [元氣いっぱい!躍動する経法生]

藤田 由子さん（法学部3年生）

信頼される警察官になり、地域の安全を守る。



私が警察官になることを決意したのは、登下校時の小学生や一人暮らしの高齢者を狙う事件が多発している中で、住民が安心して暮らせる地域作りに貢献したいと思ったからです。私の身近にいる人たちを守りたいという気持ちと長年続けてきた剣道、そして大学で勉強してきた法律を存分に活かせる仕事は警察官しかないと思い、大阪府警を受験しました。

課外活動での経験を活かす。

公務員試験に向けて、1年次から公務員基礎講座で勉強していましたが、それ以外にも正課授業の中で、公務員試験受験のために必要な科目を積極的に受講するように心掛けていました。

また、自分なりに過去問などをこなし、悔いが残らないように一生懸命に勉強しました。いくら勉強しても不安な気持ちになり、辛い時もありましたが、そんな時は、警察官になるんだという強い思いを持ち、気持ちを前向きにして乗り越えるようにしていました。

大学入学後は、アルバイトも

しましたが、剣道部に所属していたので、どちらかというと部活動中心の学生生活を送っていました。また、特修講座を受講していたこともあり、いつも帰宅が遅くな

り大変でしたが、どれも4年間続けることで自分自身の成長に大きく繋がったと思います。また、法学部で法律の分野を専門的に学んだことで、法律が普段の生活に大きく関わっていることをあらためて実感し、多くのことを学ぶことができました。

大阪府警採用試験に合格できた要因を振り返ってみると、1次試験では過去問を集中的に勉強したこと、2次試験では、特に面接が

大事なので、志望動機をしっかりと整理して、面接官に自分の熱意を伝えるように工夫したことが、よかったと思います。体力試験もあるので、日頃から体力をつけておくことも大切だと思いました。私は、面接で、警察官になりたいという自分の熱意を上手くアピールできたことが合格の決め手になったと思っています。

地域から信頼される警察官に

いままでは警察官になるのが目標でしたが、これからは誰からも慕われ、愛される立派な警察官になれるよう、警察学校でしっかりと基礎を学び、地域の方から信頼される警察官になりたいと思います。

自分の夢や目標に向かって努力することは、大変で挫けそうになりますが、私は最後まで諦めなかつたことで警察官になるという夢を叶えました。皆さんも最後まで諦めずに自分の夢と目標に向かって頑張ってください。

前向きな気持ちを持つことが、自らの目標を実現する。



私は大学に入学して4年間、通学に近鉄電車を利用していたのですが、2年生の時、乗っていた車輛の目の前の踏切で、トラックが立ち往生し、ダイヤが大幅に乱れるという事故に遭遇しました。その時に事故処理を行う乗務員の真剣な姿を見て、鉄道会社で働く人の責任の重大さを感じたと同時に、この会社なら地元である関西の地域発展のために何か貢献できるのではないかという考えを持つようになりました。

近鉄電車から採用内定の連絡

がきた時は、第一志望の会社ということもあり、ほっとした気持ちと言葉に表せないほどの嬉しさがこみ上げてきました。

1日1日の積み重ねが糧となる。

大学の授業は、4年間ほとんど休むことなく出席しました。また、テスト前の勉強も夜遅くまで

加藤 義規さん(経済学部4年生) 進路／近畿日本鉄道株式会社

るのではなく、朝早く起きてするように心掛けていました。そうすることで1回1回集中力を持って勉強することができ、テストでも良い結果を残すことができましたと思っています。また、資格取得にも挑戦し、販売士検定試験2級、秘書技能検定準1級に合格することができ、就職活動にすぐ役に立ちました。

あまり記憶力に自信がなかった中で、たくさん文字を書き、その文字を絵や映像に置き換えて記憶するという方法で勉強していました。また、3年半ほど続けた大手牛井チェーンでの接客アルバイトを通じて、お客様への気配りや目配りをするこの大切なことを学ぶことができました。

大学での4年間は、本当に多くの友人に恵まれ、自分自身すごく成長することができたと感じています。入学当初、初対面の人と話するのも苦手だった自分が、ここまで成長すること

人に、地域に愛される運転士を目指して

就職してからの当面の目標は、30歳までにアーバンライナー(大阪難波・大阪上本町)名古屋間を走る特急列車)の運転士になることです。そのためには入社後の研修から全力で取り組んで1日でも早く運転士の資格を取れるよう、一つひとつの業務に真摯に取り組んでいきたいと思っています。

すでに就職活動をはじめている皆さん、これから就職活動をはじめようとしている皆さんは、厳しさと予想される就職状況に大きな不安を抱えているかもしれませんが、そんな時こそ「前向きな気持ち」を決して忘れず、自身の目標の実現に向け、突き進んでいってほしいと思います。

明確な目標設定が、必ず結果につながる。



私は、高等学校卒業程度認定を取得し、大阪経済法科大学に入学したのですが、高校に通わずアルバイトをしている時に、知人やいろんな知り合いから話を聞いて、自分の将来について真剣に考えた結果、大学への進学を決意しました。大学では、同じ目標を持つ仲間に出会い、ともに勉強する中で法曹という明確な目標を持つことができました。

1年次から法職基礎講座を受講していたのですが、アルバイトをしているとどうしても毎回出席できず、講座についていくのも難しくなりました。

松永 貴志さん（法学部4年生）
進路／関西大学大学院法務研究科法曹養成専攻

課外活動と受験勉強を両立

1年生の夏に、初心者でしたが同じ初心者の友人に誘われラグビー部に入部しました。ラグビー部では、先輩からラグビーのことだけでなく、大学での授業の受け方などについても教えてもらい、ラグビーの楽しさ以外にもたくさんのことを学ぶことができました。

また、2年生の時に部活の先輩から紹介してもらったアルバイト先は、部活と勉強の両方を優先的に考えてくれたので、無理なく学生生活を送ることができました。部活の友人や先輩との話を通じて、勉強への取り組み方や就職活動の厳しさについて、また卒業生から職場での話を聞くことで、社会に対する色々なものの考え方を持つことができるようになりました。

4年生になる前に、アルバイトと部活にも事情を説明し、集中して受験勉強に臨める環境を作ることができたのも、合格することができた大きな要因だと思います。

目標を持つことが何よりも大事になりますが、まだ目標を持てない学生の皆さんも卒業後の自分をいま一度真剣に考えてみてください。目標を持つことに早いも遅いありません。将来について自分の目標をしっかりと持ち、その目標に向かって動き出してください。そうすれば、必ず結果が出ると思います。

大学院で専門知識を深め、有能な税理士を目指す。



私は、商業高校に通っていたのですが、そこで会計学に出会い、世の中にこんなに面白い勉強があるのか、ということを知りました。そして、次第に会計関係の仕事に就きたいと考えるようになり、公認会計士・税理士の資格取得を目指すことのできる大阪経済法科大学に入学しました。

大学に入学してからは、1年生の時から会計職講座を受講し、1年生の間に簿記検定試験3級と2級に合格することができました。2年生の時に、担当の先生とも相談し、科目合格制で努力が報われ、将来独立して自分で好きな仕事を

福谷 真基さん（経済学部4年生）
進路／兵庫県立大学大学院会計研究科会計専門職専攻
平成21年度税理士試験（財務諸表論合格）

中して取り組むことができたと同時に、昨年の春学期期末終了時点で153単位を取得することができました。また、卒業単位を取得してから、興味のある授業や資格講座と関連する正課授業は、履修するようにしていました。

今回、税理士試験に科目合格できたのも兵庫県立大学大学院に合格できたのも、ともに勉強した友人の存在があったからです。友人が自習室でひたすら勉強する姿を見て、こんなにも勉強しないと税理士試験には、合格することができないのかと感じさせられました。もし、その友人の姿を見ていなかったら、簿記2級を取った時くらいに安易な感覚で税理士試験の勉強をしていたと思います。また、周りの3年生が就職活動をはじめ、内定をもらいだした時は、すごくプレッシャーもありましたが、それに負けることなく、合格することができたので、自分にとってすごく自信になりました。

目標設定が自己実現のスタートライン

法科大学院入学前までに、法律の基礎知識をしっかりと身につけ、法科大学院での勉強に備えたいと思っています。また、法科大学院入学後も法曹になるという強い意志を持ち続け、将来検察官もしくは犯罪被害者の権利を守る弁護士になりたいと思っています。近年、裁判での被害者参加制度や被害給付金の増額等が図られています。まだまだ犯罪被害者の権利が軽視されているように感じています。そのため、犯罪被害問題及び刑事事件に強い法曹を目指して、高いモチベーションを持って今後も勉強に取り組んでいきたいと思っています。

目標を持つことが何よりも大事になりますが、まだ目標を持てない学生の皆さんも卒業後の自分をいま一度真剣に考えてみてください。目標を持つことに早いも遅いありません。将来について自分の目標をしっかりと持ち、その目標に向かって動き出してください。そうすれば、必ず結果が出ると思います。

大学院では税法を研究し、税理士試験合格を目指す。

今年の目標は、まず会計科目を終わらせるために簿記論に合格したいと思っています。大学院は学部とは違い、自主的に学んでいく姿勢が大事と聞いているので、まずはしっかりと自主性を身につけて、自分で考え、自分で行動していき、人として成長できるチャンスだと思おうので、積極的に挑戦し、このチャンスをものにしたいと思います。

大学生活は、高校や中学校までと違い、自由なところが多いです。その分、自分自身の責任や自己管理が強く求められています。大学生活の4年間は長いように見えて、あつという間に過ぎてしまっています。この4年間、毎日进行た過ごすのではなく、社会に出るための重要な準備期間と捉え、自分自身を高めるための有効な時間に使ってください。

真剣に進路を求めた 4年間で結果を生んだ。



平岡 亜佑美さん（法学部4年生）
進路／近畿労働金庫

私が就職先として近畿労働金庫を選んだ理由は、「ろうきん」が働く人のための金融機関だったからです。人がみな共生できる社会のためにお金を動かす、そんな「ろうきん」で、自分のキャリアを積み、人のために何かできる人間になりたいと思っています。同じ金融機関の、メガバンクや地方銀行、信用金庫は魅力がありますが、働く人が喜びも持って、みんなで共生できる社会を創りたいと思い、近畿労働金庫にお世話になることを決めました。

興味を持つことが 学びへの第一歩

大学の授業では、特に自分が興味を持った分野に目を向けて勉強に取り組むようにしていました。法律の知識を身につけ、自身の視野を広げることに重点を置いて勉強しました。ゼミで取り上げた課題に対しては、判例や基本書等たくさん本の目を通し、友人たちとお互いの意見をぶつけ合いながら、自身の理解を深めることができました。また、私が所属していた経

済法律研究会では、明確な目標を持ち、自分の意思をしっかりと持った仲間と出会うことができ、互いに刺激しあいながら充実した大学生活を送ることができました。4年間の大学生活を通じて、自分が一番成長したと感じることは、物事を見る視野が広がったこと、そこでたくさんの友人に出会い、素晴らしい関係が築けたことです。たくさんの人と出会い、話せたことで、自分の考えだけにとらわれず、いろんな角度から、いろんなことを考えることができるようになったと思います。

悩まなければ 人は成長しない。

今後の目標は、人のためになる仕事ができる社会人になるということです。具体的には、金融機関で働く人間としてのキャリアを磨き、FP（ファイナンシャルプランナー）上級の資格を取得し、さらに社会保険労務士試験合格を目指していきたいと考えています。そして、その経験、資格を活かし、

相談に来られたお客様一人ひとりに合った提案をできるコンサルタント・アドバイザーになりたいと考えています。

大学での4年間は、いろんなことを思い、悩みながら過ぎていくと思います。私は、進路に関しては、かなり悩んでいた時期がありました。何がしたいのか、どうすればいいのか、自分自身が分からなくて何もやる気がしなかったりすることもあり、留学中も自分のやりたいことが何なのかも考えていた気がします。しかし、悩んだからこそ、自分で納得のできる進路を見つけ、就職活動を乗り切り、キャリア形成のスタートを切ることができたのではないかと感じています。

私は、悩まなければ人は成長しないと思います。在学生の皆さんは、これから目標が達成できなかったり、就職活動で苦しんだりすることもあると思いますが、決して自分に妥協せず前に進んでいってください。そして、アルバイトでも、遊びでも、勉強でも、興味の持ったことには全力で打ちこんでください。

資格取得で 自信とキャリアを身につける。



朽尾 祐子さん（経済学部4年生）
進路／株式会社プロジェクトファイブ

就職活動をする以前から、卒業後は生活雑貨等を販売する企業で働きたいと考えていたので、本格的に就職活動をはじめてからは、生活雑貨を取り扱う企業に的を絞って、エントリーシートに登録をしていました。その中から、プロジェクトファイブを選んだのは、直接店舗で働く人たちの姿を見たりして、会社の雰囲気や自分にとって居心地がいいように感じたからです。また、職場自体に活気があり、自分もこの会社と一緒に成長していけるのではないかと思えたのが就職を決めた一番の理由です。

積極的な学びを通じて、 キャリアアップを目指す。

大学に入学してからは、ここで過ごす4年間で絶対に無駄にしたいくないと考えながら日々の生活を送っていました。特に資格講座の内容が充実していることもあり、自分が興味を持った資格は、積極的にチャレンジするようにしていました。販売やマーケティングに関心があった

ので、1年生の時に販売士検定試験3級・2級を取得しました。2年生の時には大学のプログラムで、韓国に4ヶ月間留学したのですが、その経験を活かし、3年次に韓国語能力試験初級に合格し、単位認定を受けることができました。留学で得ることのできた知識と経験は、資格取得だけでなく、卒業しても必ずどこかで活かすことができると思っています。

自分にとって 充実した4年間とは

いまの目標は、販売士検定試験1級に合格することです。この試験は、マーケティングや販売・経営管理などの科目があり、就職後も必ず自分にとってプラスになる資格だと思っています。

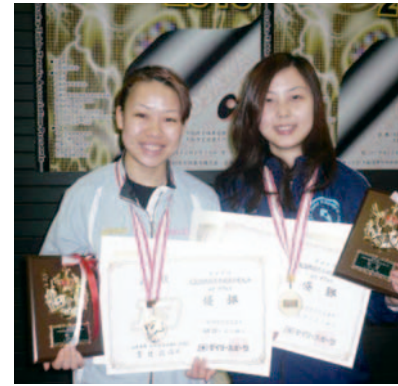
4月からは、社会人として必死に働き、何事にも貪欲にチャレンジする気持ちを忘れず、いろんなことを学びながら吸収できるように頑張っていきたいと思っています。

大学での4年間という時間を有効に使うのも、ただ何となく過ごすのも学生一人ひとりの自覚に委ねられています。興味のあることには積極的にチャレンジしてください。その経験が、きっと後から自分自身を成長させてくれると思います。

大阪国際招待卓球選手権大会 女子ダブルスで優勝

2月19日(金)から21日(日)の3日間、第49回大阪国際招待卓球選手権大会(全国オープン大会)が、大阪府立体育会館で開催され、本学卓球部の劉潔さん(経済学部1年生)が、日本生命卓球部所属の李佳選手とダブルス(女子)を組み、見事優勝を果たしました。

今大会には、各都道府県卓球協会及び連盟会長の推薦選手、前回各種目のベスト8、2009年度の世界・全国大会ランキング選手並びに地元大阪の予選会代表と推薦・招待選手などの実力者が多数参加し、全日本選手権大会なみのレベルの高いものとなりました。



写真右が劉潔さん

テコンドー部3名 全日本王者に輝く

2月14日(日)、東京・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で、全日本テコンドー選手権大会が開催され、本学テコンドー部の姜東澈さん(経済学部3年生)、石之大貴さん(法学部4年生)、小林穂奈美さん(経済学部1年生)の3名が、優勝しました。

また、大会の最優秀選手(男子)に、姜東澈さんが選出され、優勝に花を添えました。



写真中央が石之さん

テコンドー部 韓国・女子実業団チームと 強化合同練習を敢行

1月23日(土)からの1週間、韓国・全羅北道金堤市庁が運営する女子実

業団テコンドーチームと本学テコンドー部の強化合同練習が、総合体育館で行われました。

同チームは、過去にオリンピック金メダリストが在籍し、韓国の主要大会でも多くのメダリストを輩出するなど、韓国では伝統あるチームのひとつです。今回の強化合宿には、監督、コーチ、選手含め11名が来日し、充実した内容で練習が行われました。テコンドー部の学生にとっては、本場韓国のテコンドーを直接肌で体験することができたと同時に、スポーツを通じて文化の異なる選手たちとの相互理解を深める、貴重な経験となりました。



平成21年度税理士試験に 科目合格

平成21年度税理士試験の合格発表が12月11日(金)にあり、喜納陽介さん、福谷真基さん、加藤健太さんの3名(いずれも経済学部4年生)が、税理士試験科目合格を果たしました。今年度の税理士試験の受験者は、5万1479名で、合格者は8174名(うち一部科目合格者7116名)という結果になりました。

税理士資格は、会計学2科目(簿記論、財務諸表論)、税法3科目(所得税法又は法人税法は必須、相続税法、消費税法又は酒税法、国税徴収法、住民税又は事業税、固定資産税から1科目選択)の5科目を合格した者に与えられる資格です。



写真左から、加藤さん、喜納さん、福谷さん

平成21年度税理士試験 合格者のコメント

喜納陽介さん(簿記論合格)

試験終了後に自己採点をしたら点数がそんなによくなかったので、合格通知が届いたときは本当に嬉しかったです。4月からは、税理士法人への就職が決まっており、そこで働きながら残りの科目を勉強し、1日でも早く税理士になることを目標にしています。

福谷真基さん(財務諸表論合格)

周りの学生が就職活動をする中、受験勉強だけに専念していたので、合格できなかったらどうしようという不安

安な気持ちもありましたが、そのプレッシャーに打ち勝ち結果を残すことができたので、自分に自信が持てるようになりました。卒業後は、兵庫県立大学大学院(会計専門職)に進学し、税法の研究をしながら税理士試験に挑戦し、税理士資格を取得したいと思っています。

加藤健太さん(財務諸表論合格)

簿記の勉強を始めて4年間、努力してきたことが結果として表われたので本当に嬉しいです。就職後も計画を立てながら、税理士試験合格に向けた勉強を続ける予定です。将来は、30歳までに5科目に合格できるよう、頑張りたいです。

第10回法学部 学生研究発表大会を開催

11月26日(木)、第10回法学部学生研究発表大会が、八尾市文化会館で開催され、学生・教職員約400名が参加しました。

今年度の学生研究発表大会には、7名の法学部の学生がエントリーし、それぞれ日頃の演習や講義で学んだ研究成果を存分に発表しました。

【審査結果】

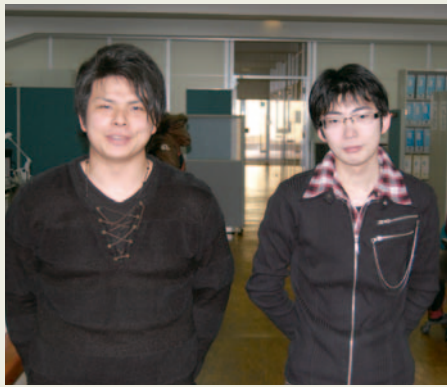
- | | |
|----|--|
| 一席 | 『評議時間は十分か
～裁判員裁判の傍聴から～』
……………小幡将之さん(4年生) |
| 二席 | 『司法制度改革
～裁判員制度の問題点～』
……………奥山雄貴さん(3年生) |
| 三席 | 『写真から読み解く、
我がまちの戦中風景』
……………辻林秀斗さん(4年生) |

平成22年公認会計士試験 短答式試験に合格

平成22年公認会計士試験短答式試験の合格発表が1月18日(月)にあり、前西雄介さん(経済学部4年生)、足立純也さん(経済学部3年生)の両名が見事合格しました。

今回の短答式試験は、受験者1万7583名(昨年1万7371名)、うち合格者1576名(昨年2289名)となり、昨年の短答式試験合格率13.2%から、9.0%という難関試験となりました。

足立さん、前西さんは、8月20日から22日に行われる論文式試験合格を目指して、現在、日々の学習に励んでいます。



写真左が足立さん、右が前西さん

平成22年公認会計士試験短答式試験 合格者のコメント

前西雄介さん

短答式試験に合格したことは、公認会計士なるまでのプロセスの中でしかないため、ようやく第一歩を踏み出すことができたという感じです。

昨年は、新型インフルエンザの流行などもあったので、体調管理には人一倍気を遣いながら、勉強をしていました。

いままで以上に努力し、8月に控えた論文式試験に合格できるよう、頑張ります。

足立純也さん

第一関門である短答式試験に合格することができ、一安心しています。

受験勉強中は、毎日同じ時間に勉強をはじめ、同じ時間まで勉強することを心掛け、日々の学習に取り組んでいました。

論文式試験に合格しないと短答式試験に合格した意味がないので、これから残された時間、気を緩めずにさらに計画をしっかりと立て、8月の論文式試験に臨みたいと思います。

学生企画「ネイル講習会 in 大阪経済法科大学」

2009年度学生公募企画(経済学会主催)に採択された「ネイル講習会 in 大阪経済法科大学」が、11月10日・19日、12月4日・9日の4日間、1号館2階学生会事務企画室で開催されました。

今回採択されたネイル講習会は、事業の企画・立案から仕入れ・広報や販売にいたるまでのすべての経営戦略を学生自らが構想・実践し、ビジネスに必要な構想力や実践力、人とのコミュニケーション能力を身につけることを目的に実施されました。

講習会には、これから就職活動をはじめめる3年生が多く参加し、身だしなみへの関心や学生相互の交流を深めることができました。同講習会の取組みは、地元Fマラジオ局FMちゃおもで紹介されました。



合格者の努力と成果を讃え 資格・検定試験合格者 祝賀会を盛大に開催

1月20日(水)、ルーズベルト大学記念館1階キャンパスレストランで、「2009年度資格・検定試験合格者祝賀会」が開催されました。

国家公務員Ⅱ種をはじめ、警察官、消防官などの公務員試験、税理士試験(一部科目)、法科大学院などの難関試験を含む各種資格検定試験に合格した多くの学生たちが参加して行われた今年度の祝賀会では、藤本和貴夫学長から祝辞が述べら

れた後、合格者を代表して4名の学生に表彰状が授与され、山中富美子教育後援会会長から記念品が贈呈されました。

合格者を代表して税理士試験に科目合格した福谷真基さん(経済学部4年生)から、合格を果たすまでの道のりや友人と切磋琢磨しながら勉学に励んだ思い出が語られました。

当日は、学生、各講座担当講師、教職員を合わせ約200名の参加者が会場に集まり、学生の日々の努力と成果が讃えられました。

2010年3月18日現在、資格・

検定試験合格者総数は796名です。主な合格実績は、左表をご覧ください。



祝賀会で合格の喜びを分かち合う学生たち

2009年度 資格・検定試験合格実績 (2010年3月18日現在)

法科大学院入学試験 (22名)

大学院入学試験 (8名)

公務員試験 (25名)

- 国家公務員Ⅱ種 (1名) ●地方公務員 (5名)
- 警察官 (10名) ●消防官 (4名)
- その他国家公務員 (5名)

経済系資格・検定試験

- 税理士【科目合格】 (3名)
- 行政書士 (3名) ●FP技能検定2級・3級 (7名・42名)
- 日商簿記検定1級・2級・3級 (4名・13名・39名)
- 販売士検定2級・3級 (15名・19名)
- ビジネス会計検定2級・3級 (2名・6名)
- 経済学検定【EREミクロ・マクロ】 (3名)

法律系資格・検定試験

- 宅地建物取引主任者 (11名)
- 法学検定2級・3級・4級 (1名・40名・36名)
- ビジネス実務法務検定2級・3級 (18名・29名)

情報系資格・検定試験

- マイクロソフト認定アプリケーションスペシャリスト Word・Excel・Power Point・Access・Outlook (74名・61名・44名・8名・3名)
- マイクロソフトオフィススペシャリスト【Word】 (2名)
- 基本情報技術者 (3名) ●ITパスポート (7名)
- 初級システムアドミニストレータ (4名)
- CIWファンデーション (1名) ●パソコン検定3級 (133名)

語学系資格・検定試験

- TOEIC【450点以上】 (14名)
- ハングル能力検定4級 (1名) ●ドイツ語技能検定4級 (1名)
- ロシア語能力検定4級 (1名) ●日本語能力1級 (3名)

スキルアップ系／福祉系資格・検定試験

- 総合旅行業務取扱管理者 (2名)
- 国内旅行業務取扱管理者 (1名)
- 秘書技能検定準1級・2級 (2名・17名)
- 日本漢字能力検定2級・準2級 (8名・3名)
- 環境社会検定【eco検定】 (5名) ●色彩検定3級 (1級)
- 福祉住環境コーディネータ検定2級・3級 (6名・4名)

教員免許状 (41名)

法学部公開シンポジウム 「岐路に立つ地方分権」を開催



催しました。シンポジウムには、学生・教職員、一般市民を合わせ約350名の参加がありました。

基調講演では、白藤博行氏（専修大学法学部教授）から「地方分権改革の今とこれから」と題して、「地域主権」を掲げる民主党政権発足を受けた、地方分権改革論の問題点について指摘があり、引き続き岡田知弘氏（京都大学大学院経済学研究科教授）が「道州制で地域はどうなるのか」とのテーマで、市町村合併の進行による地域格差の拡大についての実証的な調査を踏まえて、道州制導入による影響を批判的に論じられました。

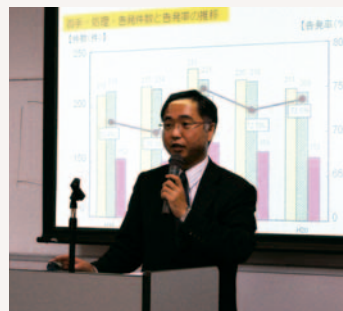
第2部のパネルディスカッションでは、まず森池豊武氏（市民オンブズマン兵庫、西宮市議会議員、本学法

学部非専任講師）と深尾健造氏（NPO法人都市文化創造機構研究員、元八尾市職員）から、地方の現状に基づいた発言がありました。その後、コーディネーターの形野清貴教授（本学法学部）の司会のもと、基調講演者2名を加えた4名のパネラーが具体的な課題についてそれぞれ意見を述べていました。また、フロアーから出された質問にも一つひとつ丁寧に回答され、参加者とこれからの地方分権のあり方について、議論を深めていました。



基調講演を行う白藤氏

租税教室を開催



12月8日（火）、八尾税務署の協力を得て、租税教室が開催されました。

今回の租税教室には、八尾税務署から村越副署長を講師に迎え、身近なのに意外と知らない税金に関する知識、そして「国税専門官」の仕事とやりがいなどについて講演をいただきました。

当日は、租税の意義や制度、国税専門官の仕事のひとつである査察などについてもビデオ上映をまじえながら、丁寧な説明が行われました。

環境市民講座を開講

2月5日（金）、地域総合研究所主催による環境市民講座が、八尾市文化会館で開催されました。

本講座は、近年、受検者が急増しているeco検定試験（環境社会検定）の内容を連続講座形式（計4回）で学習するもので、1回目となる今回は、小泉國茂氏（小泉経営工学研究所所長、政策科学博士）を講師に迎え、eco検定の概要と「持続可能な社会と経済—環境をめぐる市民・企業の環境問題—」について講演が行われました。



ました。

今回の講演会では、元大阪府副知事の梶本徳彦氏（地域総合研究所客員教授）を講師に迎え、明治から現在に至る大阪府の民間福祉事業（老人福祉、障害者福祉等）の歴史や現在の行政が抱える課題や問題点について、府行政の豊富な経験と踏まえた具体的な事例などが紹介されました。

講演会

「住民の顔の見えるまちづくり」を開催

11月19日（木）、法学会主催のもと、平成の市町村大合併時の『合併をしない

宣言』で、全国で注目を集めた福島県矢祭町前町長の根本良氏を講師に迎え、「住民の顔の見えるまちづくり—『合併をしない宣言』を通じて」が開催されました。

2007年まで6期・24年間、町長を務めた同氏は、講演の中で、町運営の基軸は町民にとってプラス（有益）になるのかマイナス（不利益）になるかで決めることが重要であると話されました。

講演会に参加した学生、一般市民は、憲法第9条「地方自治の本旨」の重要性を改めて考えさせられる機会になりました。

講演会

「格差社会のなかのジェンダー」を開催

11月17日（火）、経法学会主催のもと、「格差社会のなかのジェンダー—『男らしさ、女らしさ』について」が開催されました。

女性初の関東弁護士連



合会理事長、両性の平等に関する委員会委員長（日本弁護士連合会）などの役職を歴任されてきた杉井静子弁護士（ひめしやら法律事務所所長）を講師に迎えて行われた今回の講演会では、「広がる貧困、格差」の現状とルーツを追い、「法制度に残るジェンダー」を明らかにしたうえで、「男か女ではなく、自分らしく、人間らしく」生きることの大切さを基調メッセージとする内容で行われました。

AEDを使用した 心肺蘇生法を習得 応急救命手当講習会を開催



八尾市消防署職員の指導を受ける参加者

1月20日(水)、21日(木)の2日間、八尾市消防署の協力を受け、災害・事故等の緊急時における応急救命手当講習会「普通救命コース」が、本学6500号教室で開催されました。同講習会では、災害・事故が発生したと想定し、救急隊員に引き継ぐまでの

救急法や呼吸停止・心停止した傷病者への心肺蘇生法(人工呼吸と心臓マッサージ)、AEDの使用方法など、実際に訓練用の人形を使用した実技講習が行われました。
課外活動クラブ生を中心に、今回参加した受講者には、後日、修了証が交付されました。

防災講演会を開催 「もしもの時の防災知識」

12月11日(金)、2009年度防災講演会が開催され、八尾市防災対策室の川村明氏が講演を行いました。

災害を知る、災害に備える、災害に対応するといった3つのテーマで行われた今回の講演会では、災害時における自助・共助・公助(自分の身を守る・周りの助け合い・公的な支援



講師の川村 明氏

活動)の重要性が再三強調され、初期対応を迅速に、かつ正確に行うことで、災害時の被害を最小限に食い止めることができると繰り返し話されました。
講演会に参加した学生・教職員も、防災意識の向上を図ることができました。

自衛消防訓練を実施 約40名の学生・職員が参加

12月18日(金)、文化会



八尾市消防署職員の指導を受ける参加者

館3階で火災が発生したと想定し、自衛消防訓練が実施されました。
当日は、八尾市消防署高安出張所の指導のもと、通報・避難誘導・消火訓練(消火器使用訓練)が行われ、参加した約40名の学生・職員は、火災時における初期消火活動の重要性について改めて認識を深めました。

「国際交流通信」

2009年度 LSP留学体験記

「外国語能力の向上」を目的として開設された本学独自の短期留学プログラム「LSP (Language Study Program)」を終えて帰国した学生たちに、留学を通じて得ることのできた自身の成果などについて聞いてみました。

留学を通じて 新たな自分を発見



留学先／カナダ
トロント大学
植田絢子さん(法学部2年生)



仮装パーティーでクラスの友人たちと(写真右から3人目)

留学を終えて私の一番の収穫は、自分自身を大きく変化させることができたことです。具体的には、自分の個性をいままです以上に出せるようになったこと、また自分の価値観が広がったこと(物事の考え方が柔軟になったこと)だと

思います。

留学先の授業は、本格的な文法の授業から、演劇を通して英語を学ぶ授業などメリハリがあり、語学力の向上だけでなく、自身の個性も磨くことができたと感じています。

日本で生活している時は、いろんな国の人たちと触れ合う機会は、ほとんどありませんでした。初めて行く国で、知らない人ばかりに囲まれ、周りの人間が英語しか話さない状況というのは、私が想像していたよりも厳しいものでした。

今回の留学を通じて、いままです以上に出せるようになった自分を発見することができたと同時に、いままです以上に英語を学ぶことへの魅力を感じることができました。

いろんな国の 仲間と出会うことも 留学の醍醐味



留学先／オーストラリア
グリフィス大学
小島真人さん(法学部2年生)

私は、今回、オーストラリアに留学することができ、本当に良かったと思っています。それは、日本の授業で学ぶ英語とは違い、現地で使われている英語を直接聞き、話すことで、何倍ものスピードで語学力が向上しているのを実感で

崇実大学校では、現地の学生が学ぶ日本語学科や韓国語の授業に出席していました。先生がとてもユーモアで教える上手だったので、韓国語にもすぐに慣れることができました。

キャンパス内もきれいに整備されており、用意されていた宿舍やキッチン、シャワー、トイレ、洗濯機など、生活に必要な道具もすべて揃っており、とても生活しやすかったです。

留学先／韓国
崇実大学校
吉岡真一さん（経済学部3年生）



時に、英語圏の人との交流で刺激を受け、帰国してからは英語の習得にも力を入れて取り組みはじめています。

留学経験を活かし、資格取得に挑戦



クラスの学生と記念撮影（写真左上）

崇実大学校の学生たちは、ほとんどの学生が英語も堪能で、日本語を話せるレベルも非常に高く、自分にとってすごくいい刺激になりました。

留学を通じて英語の必要性を実感したので、今後は英語の習得にも力を入れていきたいと思っています。また、韓国語検定試験などの資格取得にもチャレンジしたいと思っています。

留学したばかりの時は、文化の違いや環境の違いに戸惑ったり、驚いたりすることが多いと思いますが、そこは時間が経てば解決してくれると思います。友達ができたり、現地での生活が慣れてくると留学は、本当に有意義で楽しいものになります。留学を希望する学生の皆さんは、是非一度経験してみてください。



授業を終えてクラスの友人と記念撮影（写真左下）

きたからです。

オーストラリアの授業は、本当に集中しやすい環境で、自分にとってプラスになる内容のものばかりでした。特にスピーキングの授業は、私がいままで受けた授業の中で、群を抜く楽しいものでした。日本にいた頃は、発音やアクセントなどは、まったく気にせず話していたのに、オーストラリアの授業では、間違った発音は、何度も先生に繰り返し注意され、発音の重要性を、身にしめて感じる事ができました。

また、留学先で知り合った



留学先／中国
復旦大学
富士寛也さん（法学部2年生）

語学以外にも、たくさんのことを学習

友人は、それぞれ国籍も違いますが、日本にいる友人と変わらないほど話しやすく、私にとって大切な存在でした。

留学生活で一番重要なのは、「とにかく友達を作ること！」だと思います。現地で困った時や勉強で分からない時でも、いろんなアドバイスをしてくれるので、本当に助かると思います。留学当初は、知らない地での生活ということもあり、どうしてもナーバスになりがちですが、友人と一緒に遊びに行ったり、話をしたりすることで、より勉強に集中する環境ができると思います。

留学中は、授業以外にも中国人や外国人に、自分から積極的に話しかけることを心掛けていたので、自分の言いたいことや相手の話すことをほとんど理解できるようになりました。

留学当初は、まったく中国語も話せず、クラスに日本人学生も一人もない状況で大変でしたが、何としても留学期間中に中国語を話せるようになってやるという強い気持ちを持って勉強に励んでいました。中国語で「コミュニケーションを取れるようになったのは、留学中の大きな成果だったと思います。」

上海には日本人観光客や学生がたくさん滞在しているのでも、目的意識をしっかりと持って勉強しないと大きな成果をあげることは難しいと思います。現地の人と直接触れ合うことで、語学力の向上だけでなく、中国人の気質、風土、習慣などについても知ることが出来ます。

これから中国に留学を考え



上海の地下鉄で友人たちと（写真左）

また、国慶節（中国の法定休日）や冬休み期間を利用して、中国国内を小旅行することもおすすめです。私は、三国志の遺跡を見たかったので、無錫、合肥、亳州に行き、中国の歴史と伝統の重みを学ぶことができました。

今回は、中国語を習得することを目的に留学したのですが、それ以外にもたくさんすることを学ぶことができたと同

TOPICS

「第19回関西留学生音楽祭 in Osaka」

12月13日（日）、第19回関西留学生音楽祭が、堺市民会館大ホールで開催されました。

本学からは、中国、韓国、ロシア、インド、タイ、ベトナム、モンゴルの7ヶ国の留学生たちと日本の学生が参加し、他大学の留学生たちと交流を深めました。



！S.D布施で開催されました。

交流会では、交換留学生による歌やダンス、椅子取りゲームや恒例のビンゴ大会なども行われ、会場内は終始熱気に包まれていました。

スキー体験会

12月20日（日）、兵庫県八千代高原で異文化交流行事「スキー体験会」が実施されました。

体験会に参加した学生たちは、限られた時間の中で、雪上での楽しいひとときを過ごしました。



新年国際交流会

国際部恒例の新年国際交流会が、1月8日（金）、

元気いっぱい!

躍動する
経法生

「ボランティア」で学んだことを
活かせるような仕事に
就きたいと思っています。

藤田 由子 さん（法学部3年生）
ボランティアサークル副部長

私とボランティアの「出会い」

大学に入学してから、何か部活かサークルに入りたいと考えていたので、いくつかのクラブを実際に見学したのですが、どれも入部してみようというところまではいきませんでした。そんな時、バリアフリールームでノートテイク（筆記通訳）をしていた私に、当時副部長の先輩が、「ボランティアサークルに入らないか?」と声をかけてくれたのが、入部するきっかけでした。

小中高と親戚の影響で地域の清掃活動や保育所でのボランティア活動などに参加していたことと、元々「ボランティア」自体に興味を持っていたこともあり、サークルでの活動にもすんなりと馴染むことができました。

「ボランティア」という言葉を聞くと何か堅苦しいイメージがありますが、私はみんなで和気あいあいと楽しむことをモットーにしながら、ボランティアサークルでの活動に取り組むようにしています。

ボランティア活動を通じて、 人の役に立つことの楽しさを知りました。

現在、ボランティアサークルの部員は23名で、主な活動内容は、障がい学生の学習支援（ノートテイクや教室間の移動等）や東大阪市、八尾市にある福祉作業所や障がい児者問題協議会から

私は、小学校の頃から、いろんなボランティア活動に参加していたのですが、大学に入学するまでは、ただ言われたことだけをするという受け身の状態でした。しかし、大学でサークルに入部してからは、周りの環境も変化したせいか、自分から積極的に動くようになり、個人的にもいろんな団体の方と接する機会が増え、自分のものの考え方も少しずつ変化してきました。昨年4月からは、ボランティアサークルの副部長を任されるようになり、初めて人の上にとって活動することで、自分のためだけではなく、人のために何かしようという「FOR YOU 精神」が、より身についたのではないかと感じています。

これからいろんなことに挑戦し、 自身の成長の糧にしていきたいと思います。

今年は、ボランティアサークルの活動以外にも、福祉系や語学系の資格取得にも積極的にチャレンジしていきたいと考えています。また、卒業後は、いままでのボランティア活動を通じて得た経験や知識を活かすことのできる、福祉に関連する就職を希望しています。来年も大学生を取り巻く就職状況が厳しいと言われていますが、いま自分ができることを精一杯やり遂げ、自分の目標を達成し、社会に貢献できるような人材になりたいと思います。

最後に、ボランティアサークルに関わっている学生のみんなは、本当に明るく、楽しい学生ばかりです。サークルで活動する時も、毎回友だち同士で遊びに行っているような感覚で、参加することができます。もし、ボランティアサークルの活動やどんな学生が参加しているのか、少しでも興味を持ってくれた学生がいたら、是非1号館1階にあるバリアフリールーム（国際部と学習支援センターの間）を訪ねてみてください。私は、水曜日を除いて毎日部屋にいますので、一度お話だけでもしてみませんか。お待ちしております。

献血のボランティアを行う藤田さん（中央）



の依頼を受け、ふれあい祭やクリスマスパーティーなどのお手伝いをするのです。学外のボランティア活動は、春と夏に活動が多いのが特徴です。また、月に1度、サークルでミーティングを行い、情報共有をするようにしています。